

○演習素材

教育目標：グローバル化を踏まえ、コミュニケーション能力の涵養を重視し、特に英語によるコミュニケーションスキルの向上を図る。

6カ年計画：大学のグローバル化を推進するために、グローバル戦略室を設置し、海外の協定校を現在の10校から15校に増やし、受入学生・派遣学生への**各種支援策を拡充し**、受入学生を10%増、派遣学生を20%増とし、国際感覚を涵養する。

<計画の解説>

評価大学では、グローバル化を推進するために、さまざまな施策を検討している。

平成28年度中に、グローバル戦略室を設置し、副学長1名と国際交流コーディネーター（任期付き准教授もしくは講師クラス）、正規の事務系職員（専任2、兼任3）と非正規のパート職員1名を配置する予定となっている。ここでは、国際交流関係の委員会の統廃合に関する検討、国際戦略の策定や関係部署（留学交流課、留学生センター）との業務分担の整理を行い国際交流に関するマネジメントを行うこととしている。

海外の協定校を現在の10校から15校に増やすために営業活動を行うわけだが、国際交流コーディネーターが探すだけでなく学内の教職員に呼びかけて共同研究者や知り合い等がいる大学を紹介してもらい、いわゆる「脈」がありそうな大学に訪問することとしている。

受入学生・派遣学生への各種支援策を以下のように拡充したいと考えている。まず派遣数の増加のために英語で行う科目を増加させ、1年前期と3年後期にTOEICテスト受験を義務化した。1年前期のTOEICテストのスコアは成績の20%に反映される。また得点が著しく低い者は夏期休業中に特別コース（2週間）の受講が半ば義務づけられる。「半ば」というのは、どうしても通常の授業料とは別に払ってもらおう受講料（7万8千円）が払えない学生の場合には、出席が免除される。平行して経済的支援の充実も検討しており、海外渡航学生の金銭的支援の準備を進めており、評価大学基金から毎年500万円を支援金に用いる予定である。大学の負担と合わせ1週間程度の渡航であれば5万円を支給する計画である。また、1週間から2週間程度の語学研修やスタディツアーを受け付けてくれる大学については、国際交流コーディネーターが県の国際交流協会等とも連携し開拓する予定である。

受入については、海外での大学説明会を平成29年度から中国(上海)で行う計画を進めている。数年後には3カ国で合計6回程度は実施したい。受入学生の拡大のためには英語のみで卒業できるプログラムの検討も必須であるが本学では、そのようなプログラムは存在しない。また、経済的支援として留学生寮の拡充を考えているが、予算が限られていることから日本人向け学生寮の混住化を図ることで解決したいと考えている。本学では1年次と2年次の留学生1名に対し、1名の日本人学生のチューター（任期2年）をつけて、学業面及び生活面の支援を行っている。平成26年度に留学生に対してアンケートを行ったところ、生活面では各行政機関での手続きの支援やアルバイト紹介等、各種支援策について好評であったが、学業面での支援や異文化交流の活動については不満が多かった。具体的には、日本語がよく分からないので授業についていけなかったが、その支援がなかったという意見が多かったため、日本語入門科目の拡充も検討している。また、異文化交流体験については、各イベントで日本人の参加者が少なく固定メンバーであるこ

とや、一緒に料理を作っておしまい、というマンネリ化についての指摘が多かったため、これも県の国際交流協会等とも相談の上、改善を図っていく。

○ 後日、計画や解説では不明瞭だった部分が指摘され、全学的な検討が行われた。

<後日、評価大学で検討し、決定した事項>

- ・計画における「受入学生・派遣学生」の定義
 - とともに1週間以上滞在する学生（単位の取得は関係ない）
- ・「国際感覚」が涵養される：
 - TOEIC のスコアが 600 点を上回ること
 - 海外に住む外国人の友人（メールの送受信が年3回以上ある）が複数いること
- ・「グローバル化」が進む：
 - 海外に本部もしくは営業拠点や支社、支店を持つ企業に採用された学生の増加と定義した。